

第10回世界水フォーラム アジア太平洋地域プロセス概要

1 地域プロセス概要

地域プロセスでは、世界を4つの地域（アジア太平洋、アフリカ、北・中央・南アメリカ、地中海）プロセスに分け、地域全体、及び、サブ地域レベルの課題対処に寄与するケーススタディや実践案を発表することを目的としている。この点から、地域プロセスは、世界の共通関心テーマの優先順位に基づき、より分析・理論的なアプローチをとるテーマ別プロセスとは異なる。

地域プロセスの主な目的は、次の4つである。

- ・ フォーラムのテーマのもと、各地域で特定された優先事項の解決に向けて、地域の優先事項と関連する具体的な地域の行動計画を特定し、共有・実施する。
- ・ 地域全体やサブリージョンの水に関する優先課題を特定し、その課題に対する解決策を策定することにより、地域全体やサブリージョンの水に関する課題についての地域的な対話と協力を促進する。
- ・ 地域間対話を通じて、共通の水問題についての経験、アイデア、教訓、潜在的な解決策を地域間で交換する。
- ・ 地域の水関係者の協力を強化し、当該地域における水課題に関する政治的認知度を高める。

地域プロセスは、世界水フォーラムまでの準備プロセスやその他のプロセスにおける協議を通じて、地元や地域の視点を取り入れる。議論を行う。テーマの枠組みは、テーマ別プロセスに沿うものの、各サブ・テーマの重要性が、その地域全体やサブリージョンごとに異なることを念頭に置き、優先課題と解決策を提示する。地域プロセスは、また、5つの政治プロセスに対する政策提言、コミットメント、地域的・サブ地域的視点からの知識と経験の共有を通じて、政治プロセスを推進する。

議論を行うにあたって、地域やサブリージョンから幅広い多様な利害関係者の参画が必要とされ、地域に根差した実現可能な解決策を提示することが期待されている。そのため、各地域プロセスには、世界水会議より、次の地域プロセスコーディネーターが任命されている。

- ・ アジア太平洋地域プロセス（アジア・太平洋水フォーラム（APWF：日本水フォーラム事務局）、アジア水会議（AWC：K-Water事務局）¹、
- ・ 地中海地域プロセス IME. Mediterranean Water Institute 地中海水機構
- ・ アフリカ地域プロセス アフリカ水閣僚会議（AMCOW）

¹ 2024年1月より、アジア開発銀行（ADB）も、アジア太平洋地域プロセスコーディネーターに加わった。

- ・ アメリカ地域プロセス 米州開発銀行 (Inter-American Development Bank)

2. アジア太平洋地域プロセス

第10回世界水フォーラムにおけるアジア太平洋地域プロセスでは、アジア太平洋地域を5つのサブ地域(北東アジア、中央アジア、東南アジア、南アジア、オセアニア/太平洋島嶼国)に分け、各地域特有の水課題に対する解決策、解決に至るまでの施策の取り組みポイントや突破口について、先進事例を用いながら議論を行う。

第10回世界水フォーラム・アジア太平洋地域プロセスコンセプトノート

1 概観

アジア太平洋地域は、多様な地理と気候を誇っている。この地域には世界の総人口の60%が住んでいるが、水資源、衛生設備、サービスへのアクセスレベルはさまざまである。アジア太平洋地域の賑やかな都市部は、人口と経済成長率が最速の部類に入るが、飲料水、衛生設備、産業用水の需要増に直面している。頻繁な自然災害や環境問題の影響を受けやすく、水不足が深刻化している。天然資源へのアクセスにおける不平等と不公平、そして脆弱なガバナンスは、この地域における社会政治的課題である。このような多面的な問題に効果的に対処するには、地域固有の特性と住民の多様なニーズを考慮した、持続可能で統合的なアプローチが必要である。

しかし、水道事業が都市開発のペースに追いつくためには支援が必要であり、これはすでに不可欠な課題となっている。これとは対照的に、農村部や社会から疎外された地域では、安全に管理された水へのアクセスが限られていること、需要の増加やより高い経済ニーズに対応するため、水が適切に再配分されないことによる水不足、不十分な水インフラやサービス、水質汚染、社会経済的・ジェンダー的不平等、認識や能力の不足、水の安全保障課題の総合的な解決に向けた集団的行動を可能にする環境が限られていること、財源が限られていることなど、さらに根本的な溝を埋めなければならない状況に直面している。

アジア太平洋地域はまた、世界の小島嶼開発途上国(SIDS)の3分の1を擁する地域でもある。小地域である太平洋島嶼国は、安全な水と衛生設備へのアクセスが世界で最も低い水準にあり、災害や気候変動による水関連の影響を不釣り合いに受けている。太平洋地域の人口の約40%が基本的な飲料水施設を利用できず、約3分の2が基本的な衛生設備を利用できずに暮らしている。

これらの課題に対処するには、包括的かつ全体的なアプローチが必要である。包括的な解決策には、科学、知識、イノベーションの活用、水文データへのアクセスの改善、強靱な水インフラの強化、包括的な水ガバナンスの育成、多様なステークホルダー間の協力の促進、不平等と貧困の削減、水ガバナンスにおけるジェンダーと社会的包摂の確保、国境を越えた協力の強化、革新的な資金調達メカニズムの活用など、さまざまな要素が含まれる。

アジア太平洋地域は、包括性に基づいた水管理における回復力と持続可能性を促進す

る、質重視の社会の発展を優先しなければならない。これは、地域レベルでの介入から地域・世界レベルでの知識の共有まで、様々な階層における協調的努力によって達成することができる。このような行動は、地域の繁栄と持続可能な開発の実現に不可欠である。

アジア太平洋地域は、包摂性に根ざした水管理のレジリエンスと持続可能性を促進する、質の高い社会づくりを優先しなければならない。これは、地域レベルでの介入から地域・世界レベルでの知識の共有に至るまで、様々な階層における協調的努力によって達成することができる。このような行動は、地域の繁栄と持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて不可欠である。

このような努力は、第10回世界水フォーラム地域プロセスに参加する政府、研究機関、市民社会組織、民間セクターの利害関係者の協力による、持続可能性、レジリエンス、包摂性の原則に根ざした包括的な水管理計画によって構想される。この計画には、地域ごとに調整された解決策、共有された道筋、可能にする条件、ツールや方法論、ベストプラクティスのショーケースなどが含まれる。

最後に、私たちは、この地域の国々やコミュニティ、そして世界の他の地域のマルチステークホルダーにとって、水と文化とイノベーションの結びつきをよりよく理解する必要がある。特に、私たちの現在と未来における文化の役割を、各サブリージョンより共有された実践や議論を通じて理解し、影響を拡大するために、ジェンダーや社会的平等の観点を考慮しながら、先住民の知識をどのように活用し、統合するのが最善なのかを共に考える必要がある。文化が可能にするレジリエンスと繁栄の共有は、より良い未来のために、私たちの生命と生活をより良く守ることになるだろう。

2. テーマの枠組み

第10回世界水フォーラムの包括的テーマである「繁栄の共有のための水」のもと、(1)水の安全保障と繁栄、(2)人間と自然のための水、(3)災害リスク削減と管理、(4)協力と水外交、(5)水革新的ファイナンス、(6)知識とイノベーション、の6つのサブテーマが提案されている。

6つのサブテーマを基に、アジア太平洋地域プロセスは、以下を明らかにすることを目的とする：

- (a) 水管理の包摂と公平性、先住民の知識の側面を考慮し、課題と行動に取り組む際の課題と機会。これには次のことを含む。
- ・ 何が達成されたのか、さらにどのようなハードルを取り除き、どのような努力をしなければならないのか、
 - ・ 共有の道筋はどのようなものなのか、
 - ・ 共有の目標と繁栄を実現するために政治的意思を高め、より強力な協力とパートナーシップを形成するにはどうすればよいのか、
 - ・ 説明責任を果たすにはどうすればよいのか（何がなされ、何がまだなされる必要が

あるのか、いつまでに、どの程度の努力が必要なのか、対応するスケジュールも含めて)；

(b)ブレイクスルー、課題に対処するための環境と方法論を可能にし、効果的な水管理の実践を実現するための行動を強化する、

(c)地域や文化に合わせた解決策、道筋、ベストプラクティス／ショーケース、ツールやフレームワーク。

この 10 のトピックの枠組みは、アジア太平洋地域プロセスの構成と実施の指針となるものであり、集中的でありながら、豊かで、多様で、包括的であり、一貫性、整合性、影響力を保証するものである。10 のトピックを深く掘り下げることで、

- (1)科学技術、
- (2)ジェンダーと社会的公正の視点を含むガバナンス、
- (3)ファイナンス、
- (4)文化、先住民の知識

の 4 つの側面から、(a)、(b)、(c)を 5 つのサブリージョナルプロセスごとに、かつ、アジア太平洋地域全体で包括的に議論することで、アジア太平洋地域の議題とメッセージを政治指導者に提示することが期待される。

アジア太平洋地域プロセスは、以下、5つのサブ地域ベースに分けた議論を行う。：

- ・ 北東アジア
- ・ 東南アジア
- ・ 南アジア
- ・ 中央アジアおよびコーカサス諸国
- ・ オセアニアおよび太平洋島嶼国

| Sub-region | Countries |
|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Central Asia and Caucasus Region | Afghanistan, Armenia, Azerbaijan, Georgia, Kazakhstan, Kyrgyz Republic, Mongolia, Tajikistan, Turkmenistan, and Uzbekistan |
| Northeast Asia | China, Japan, and the Republic of Korea |
| Southeast Asia | Brunei, Cambodia, Indonesia, Lao PDR, Malaysia, Myanmar, Philippines, Singapore, Thailand, East Timor, and Vietnam |
| South Asia | Bangladesh, Bhutan, India, Nepal, Pakistan, Maldives, and Sri Lanka |

| | |
|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Oceania & Pacific Island Countries | Australasia Sub-Region: Australia, New Zealand Pacific Island Countries: Cook Islands, Fiji, Kiribati, Marshall Islands, Federated States of Micronesia, Nauru, Niue, Palau, Papua New Guinea, Samoa, Solomon Islands, Tonga, Tuvalu, and Vanuatu |
|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

3. 作業部会の構成

アジア太平洋地域プロセスは、5つのサブリージョンで構成される：北東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジア・コーカサス、オセアニア・太平洋島嶼国である。

各サブリージョンごとに、APWFとAWCのメンバー組織の両方から、指定されたコーディネーターが選ばれ、サブリージョンおよび国レベルでの多様な利害関係者の調整を促進する。

多様な利害関係者による首尾一貫した議論を確実にするため、アジア太平洋地域プロセスは、第10回世界水フォーラムのテーマ別プロセスの6つのサブテーマとトピックに沿った10のトピックの枠組みを確立した。各サブリージョンは、この枠組みの中で特定の問題に優先順位をつけ、議論する。さらに、アジア太平洋地域間および地域レベルでの議論も行われる。

セッションのオーガナイザーとトピック提供者（ワーキンググループメンバー）の選定は、トピック選定の合意形成プロセスに従って行われる。

さらに、アジア太平洋地域プロセスでは、アジア太平洋地域プロセス・コーディネーターに専門的な知識とフィードバックを提供し、アジア太平洋地域プロセス報告書の作成を支援するため、当地域のテーマ別専門家数名で構成される Experts Panel も設置される。

4. 成果物（期待される成果）

- ・ **アジア太平洋地域プロセス報告書**：地域プロセスでの議論から得られた知見や提言は、第10回世界水フォーラムのためのアジア太平洋地域プロセス報告書としてまとめられ、同フォーラムで発表される。この報告書では、各サブリージョンの課題を浮き彫りにし、それらに対処するためのアプローチや行動を提案する。地域全体のステークホルダーが一堂に会することで、報告書は地域の水に関する課題と機会について包括的かつ微妙な理解を提供する。

- ・ **フラッグシップ・レポート**：地域プロセスに携わる機関が、自主的に出版する報告書。例えば、JWFとアジア開発銀行研究所は共同で「政策文書-水資源管理における社会文化的側面の取り込み：政策、実践、課題」を作成する。このフラッグシップ・レポートは、水に対する人々の考え方や水管理の方法に影響を与える水管理慣行の社会文化的側面を探るものである。この報告書は、効果的な水資源管理のために、政策や実践がどのように社会文

化的側面を取り入れることができるかについて、貴重な洞察を提供するものである。

- ・ 各テーマに沿ったショーケース集：地域プロセス報告書、セッションで紹介されたショーケースと、論文やセッション時間のスペースが限られているため掲載されていないショーケースを網羅している。

◆ アジア・太平洋地域プロセス 10 のトピック枠組み

I Smart Water Management: Opportunity and Challenges

スマートな水管理：機会と課題

デジタル・ソリューションと AI は、アジア太平洋地域の喫緊の課題である水の安全保障に対処する一助となる。急速な都市化、気候変動、老朽化したインフラ、脆弱な統治システム、清潔な水へのアクセスと管理の制限から生じる課題に直面しているこの地域は、水危機に取り組むために、情報通信技術 (ICT) と AI というゲーム・チェンジャーを受け入れなければならない。

そのためには、この地域のほとんどの発展途上国において、給水・排水のための中核的なインフラサービスや、能力・人的資本の獲得における制約のために、「スマート」な技術ソリューションの迅速な導入を妨げている障害を取り除く必要がある。

このトピックでは、AI の時代における以下のような重要な課題と機会について議論する予定である：

- ・ 変化する社会経済状況の下で、都市やコミュニティがどのようにこれらの技術を活用して資源やサービスの効率を高め、住民、特に最も疎外されたコミュニティのために持続可能な水供給を確保するか；
- ・ 現場の状況に即したオーダーメイドの ICT ソリューションを提供するために、関係者の積極的な参加を促す方法；
- ・ 水の安全保障の課題に効果的に対処するために、これらの国々が従来のアプローチを飛び越え、革新的な技術を直接取り入れる方法；
- ・ 都市やコミュニティは、ビッグデータやスマートフォンを活用することで、どのようにサービス提供の効率性を向上させ、持続可能な水管理のための地域政策を採用する権限を住民に与えることができるか

本セッションでは、ICT 社会における水に関する先端的課題について議論することが期待される。

2 Addressing Water Scarcity in Agriculture: Rational use of agricultural water according to the basin's characteristics

農業分野の水不足への対処：流域の特性に応じた農業用水の合理的利用

アジア太平洋地域全体の水不足のダイナミックな性質を事例で説明しながら、健全な水利用計画や健全な水配分の枠組み、水不足に対する農民の適応支援、排水の再利用、持続

可能な地下水管理、水質回復への取り組みなど、効果的な水管理手段を通じて、各サブリージョンがどのように水不足問題に効果的に対処できるかについての知識を提供する。

このトピックでは、節水技術の実現、点滴灌漑、作物の多様化、土壌保全など、水利用を最適化し、水効率を向上させる、より持続可能な農業慣行の導入機会についても紹介する。

議論の枠組みはまた、農業における水不足の深刻化という課題に取り組む上で、効果的なガバナンスの重要性を認識する。この地域では、非公式、文化的、宗教的、その他の慣習的な水利用の割合が大きいため、この議論は特に重要である。水不足に取り組むためには、意思決定においてこのような水の所有権を認める健全なガバナンス構造が不可欠である。

このトピックでは、長期的に持続可能な水管理を達成するための実行可能な道筋を域内の国々に提示し、農業水利用の現場での要件を考慮し、水危機の影響を緩和し、様々なセクターからの需要増に対応し、食料安全保障と生態系の健全性の改善に寄与する。

3 Sanitation improvement in Asia and the Pacific

アジア太平洋地域の衛生改善

ESCAP が発表した SDGs プロファイル・レポート 2023 によると、2015 年以降、アジア太平洋地域全体で衛生設備の強化に目覚ましい進展があった。約 5 億 4,900 万人が少なくとも基本的な衛生サービスを利用できるようになり、その結果、普及率は 2015 年の 74%から 2020 年には 82%に上昇した。さらに、安全に管理された衛生サービスの普及率も向上しており、2015 年の 48%から 2020 年には 59%に増加している。農村部では、野外排泄撲滅への取り組みが有望な成果を示しており、普及率は 2015 年の 20%から 2020 年には 12%に減少している。しかし、安全に管理された衛生設備の 2030 年目標（目標 6.2a）を達成するには、進捗を 1.9 倍に加速する必要がある。そのためには、パラダイムシフトと、衛生改善を促進するための新たなアプローチの導入が必要である。

そこで、このトピックでは、革新的な衛生ソリューションに焦点を当てた様々なケーススタディを紹介する。これには、サービス・チェーン全体を通じて人間の排泄物の安全な管理を確保するための技術的な代替案や多様な人々の効果的工夫の選択肢を探ることも含む。さらに、透明性と説明責任の側面も含め、制度、規制、資金調達の取り決めを重要な要素として包含する、実現可能な環境の確立に焦点を当てる。特に、持続可能なインフラ整備と管理に伴う、現場での衛生管理のための実行可能な管理・ガバナンスシステムに重点を置く。

アジア太平洋地域の多様な国々で成功した技術的、ガバナンス的、文化的実践を統合することで、サニテーションの革新がどのように異なる地域の状況に効果的に適応できるかを実証する。また、最も周縁化されたコミュニティのニーズに確実に対応するため、シティワイド包括的サニテーションの実現に必要なガバナンスのあり方についても議論する。

4 Diverse wastewater management challenges and the innovation

多様な排水管理の課題とイノベーション

アジア太平洋地域では、未処理の排水処理や不十分な排水処理が、人々の健康と環境を著しく脅かしている。この課題の深刻さは、急速な都市化、インフラのひっ迫、都市部や低所得地域での不十分な排水処理によって悪化している。社会経済的要因は、効果的な排水管理への不平等なアクセスをさらに制約し、脆弱なコミュニティにおけるコレラや赤痢などの疾病のリスクを高めている。

このディスカッションでは、特に産業排水管理に効果的に取り組み、循環型経済を推進する方法に焦点を当て、科学技術の革新、ガバナンス、ファイナンス、文化の観点から、特定されたギャップを埋めるための行動と解決策を掘り下げる。各小地域の状況に応じた解決策を提供することを目的としている。

埋めるべきギャップとつかむべき機会

一部のアジア諸国では一定の進展が見られるものの、排水管理の優先順位は依然として低い。処理された排水をリサイクルすることは、水、エネルギー、栄養素、回収可能な物質の貴重な供給源として有望である。手頃な価格の処理技術を採用すれば、エネルギー生産、肥料生成、非移動用途の安全な水をさらに促進することができ、水と衛生に関する持続可能な開発目標に合致する。

取り除くべきハードル

これらの問題に取り組むには、政治的な意志と投資が不可欠である。さらに、排水管理の改善をおろそかにすることは、経済的に軽率であり、資源回収を重視する循環型経済の可能性を見落としている。

革新的な解決策と行動へのズームイン

サブリージョナル・プロセスでは、大規模に展開されれば、課題解決に多大な貢献をする。以下のような具体的なイノベーションを掘り下げていく：

- ・ データ主導のアプローチと AI を活用したイノベーション
- ・ 既存の資金をより効果的に活用し、民間資本をより多く動員し、ブレンドファイナンスを行う革新的な資金調達メカニズム
- ・ 排水処理施設やサービスへのアクセスの改善
- ・ -地域レベルでの水のリサイクルと再利用の促進
- ・ -地方政治関係者の能力開発

5 The Future of Green Water Infrastructure Harnessing the Power of Nature

自然の力を利用したグリーン水インフラの未来

自然を基盤とした解決策 (NBS) としてのグリーンインフラの役割と、グレーインフラとの調和について議論する。その目的は、アジア太平洋地域の既存の都市河川流域景観の中で

NBS を適用することで得られる道筋を探り、異なるスケールにおける水文学的・生物学的プロセスの関係を統合することで、生態学的脅威を軽減し、流域プロセスにおける調和を最大化することによって、水の安全保障を改善し、生物多様性を強化し、持続可能な開発の機会を拡大することである。また、「何もしない」アプローチや従来のグレイインフラと比較しながら、実施のための方法論、制度的取り決め、測定アプローチ、費用便益分析、効果評価について議論する。

6 Basin Management for Disaster Risk Reduction and Management

災害リスク低減のための流域管理

アジア太平洋地域は依然として世界的に最も災害の多い地域であり、異常気象や自然災害の頻度と激しさは増している。どの国も、将来の気温や降雨量の変化が自国の水環境に及ぼす潜在的な影響を懸念しているが、不確実な将来の中で、災害リスクに対処するために、それぞれの国が様々な課題に直面している。災害リスクの軽減と適応策のための資金確保は、依然として根強い課題である。

このため、アジア太平洋地域プロセスにおける災害リスク軽減・管理に関する議論は、河川対策のみならず流域全体でのリスク認識・特定から対策策定、資金調達、マルチステークホルダーの関与、現場での実施に至る重要なステップを網羅した「行動指向」のアプローチのショーケースの交換を促進することを目的としている。

7 Empowering Youth Leadership in addressing Water challenges in Asia and the Pacific

水問題解決に向けた若者のリーダーシップの強化

アジア太平洋地域では、さまざまな国々が若者に水教育を提供する措置を講じている。しかし、この地域の若者の間で経験、教訓、優れた実践の交換を促進する包括的なプログラムは不足している。そのため、アジア太平洋地域のプロセスは、才能ある若者が一堂に会し、互いに学び合い、協力し合う又とない機会を創出する。

この第一の目的は、若者のリーダーシップを強化することで、目に見えない水の安全保障課題を目に見えるものにするにある。水の安全保障とレジリエンスのために革新技术やツールを活用する若者の潜在能力を活用しながら、データギャップ等に対処し、水分野における若者と政府の協力関係の強化を含む、世代を超えた有意義なパートナーシップ構築のための道筋を議論する。

水の課題に効果的に取り組むためのツールと知識を若いリーダーと構築することで、より持続可能で包括的な水資源管理への道を開き、最終的には持続可能な開発目標の達成と2030年以降の繁栄の共有のための水に寄与する。

8 Transboundary water cooperation for Sustainable, Resilient, Inclusive

Sound Water Cycle from Source to Sea

水源から海までの持続可能で強靱、包摂的な健全な水循環に向けた越境水協力

2022 年統合水資源 (IWRM) 調査 (SDGs6.5 の進捗評価) によると、アジア太平洋地域は IWRM の計画において大きく前進している。しかし、多くの国々は、主に不十分なモニタリング、不十分なセクター間調整、不十分なデータ、限られた資源と能力のために、IWRM 政策手段の実施において依然として限界に直面している。行政レベルで策定される伝統的な IWRM 計画では、災害リスクの軽減や管理だけでなく、人と環境の両方のニーズに効果的に対応することはできない。

さらに、山岳地域は、主に気候変動やその他の人為的な活動によって大きな変化を遂げつつあり、こうした変化を管理することは困難になってきている。例えば、ICIMOD の 2023 年版報告書「ヒンドークシヒマラヤ (HKH) における水、氷、社会、生態系: An Outlook」によると、地球温暖化レベルが 1.5°C から 2°C の場合、HKH の氷河は 2100 年までに体積の 30% から 50% を失うと予想されている。

雪氷圏は生物圏の不可欠な一部であり、人々の幸福に大きな役割を果たしている。したがって、氷河や雪に蓄えられた水の経済的価値を理解することは重要である。雪氷圏の変化は、上流と下流の両方で、水の利用可能性、食糧安全保障、人間の居住に影響を与える。氷河の融解は、氷河湖決壊洪水 (GLOF)、鉄砲水、地滑り、雪崩などの現象を通じて、下流の地域社会に壊滅的な影響を与えることもある。その影響はしばしば国境を越えて及ぶ。

従来 of IWRM を主体的に克服するためには、上流の山 (水源) から海まで流域全体の多様なステークホルダーのニーズを把握し、計画を統合し、変革的な水ガバナンスと多様なステークホルダー間の協働取組を推進することが不可欠である。

本テーマでは、各サブリージョンの各流域において、水源から海までの健全な水循環管理に関するグッドプラクティスを共有しながら、各流域レベルにおいて誰一人取り残されることのない持続可能で強靱な包括的社会を構築するために、国境を越えた水協力の推進と協調的な行動を促進するための方策について議論する。

9. Mobilizing Water Finance for Climate Adaptation and Disaster Risk Management

気候適応と災害リスク管理に水ファイナンスを動員する

気候変動に起因する災害は、アジア太平洋地域で頻度と激しさを増している。災害リスクに対するレジリエンスを構築するアプローチを根本的に変えない限り、気温が 1.5°C あるいは 2°C 上昇すれば、災害の脅威に対する適応は不可能になる。アジア太平洋地域では、災害リスクが回復力を上回る日も近いことを鑑みると、災害リスクへに対するファイナンスを劇的に増やし、損失と損害のメカニズムを分析し、ファイナンスメカニズムを拡大する必要がある。

資金が制約される中、災害後の支出よりも災害前絵の備えに対する投資の方がはるかに

費用対効果が高いことを忘れてはならない。既存の資金をより効果的に活用し、ギャップを埋めるために革新的な資金調達メカニズムを活用しなければならない。テーマ債、適応のための債券、生態系適応ファイナンスは、民間投資を呼び込み、リスクを軽減し、新たな市場を創出するのに役立つ。これらの手段は、政府開発援助や国家資金を補完するものであるべきであり、同時に、ガバナンスとマネジメントの改善、デジタル技術の活用への投資は、適応資金活用の効率性、透明性、アクセシビリティ、アカウントビリティを向上させるものである。併せて、必要に応じてデジタルリテラシーの向上も必要である。

10 The roles of Culture in solving water challenges

水問題解決に向けた文化の役割

アジア太平洋地域は、文化の多様性と地域特有の歴史によって、世界の他地域とは異なる独自性を持っている。アジア太平洋地域では、水資源の利用や管理に文化や慣習が影響を及ぼしている。文化と水との関連性は、今後さらに広くかつ深く探求されていくことが望まれる。水と文化の相互関係を深化させ、水を流域の限りなく貴重な財産として認識していくことが、流域全体の多様性を保持し、革新を生み出し、潜在的な経済活動を掘り起こしていくこととなる。

このテーマにおいて、自分たちの文化と水を幅広く、深く見つめ直し、他の流域の文化と水の情報交換することによって、改めて自身の流域の水問題解決の方向性を明確にしていく。各々の地域の文化と水を、生活、技術、ガバナンス、ファイナンス・経済と関連付けることによって、アジア太平洋地域が持続可能な個性ある社会を実現してことについて議論する。

◆ アジア太平洋地域全体のコーディネーター

- ・ Asia-Pacific Water Forum (APWF) (アジア・太平洋水フォーラム)
- ・ Asia Water Council (AWC) (アジア水会議)
- ・ Asian Development Bank (アジア開発銀行) <2024年1月から>

上記で述べたように、アジア太平洋地域全体のコーディネーターは、日本水フォーラムが事務局を務めるアジア・太平洋水フォーラム (APWF)、及び、K-Water が事務局を務めるアジア水会議 (AWC)、及び、2024年1月より、アジア開発銀行がコーディネーターメンバーに加わり、取りまとめを行っている。

アジア太平洋地域サブリージョナルコーディネーターは、APWF、及び、AWCのメンバーからそれぞれ選出されている。

◆ アジア太平洋地域サブ地域コーディネーター（総勢 17 機関）

| | |
|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中央アジア・ コーカサス | リードコーディネーター：アラブ海救済基金執行審議会議長国（EC-IFAS）2024 年 1 月からカザフスタンが議長国）、及び、 サブコーディネーター：世界水パートナーシップ（GWP）中央アジア・コーカサス |
| 北東アジア | 日本：日本水フォーラム 中国：長江水資源委員会（水利部任命機関） 韓国：韓国水フォーラム コーディネートサポート機関：UNESCO 北東アジア事務所（北京） |
| 東南アジア | リードコーディネーター：GWP 東南アジア サブコーディネーター：インドネシア国家開発計画省（BAPENAS）、公共事業国民住宅省 コーディネートサポート機関：メコンー韓国水資源管理協働研究センター（KOMEK） |
| 南アジア | リードコーディネーター：GWP 南アジア サブコーディネーター： ・ スマート WASH Solutions（ネパール） ・ 国際水資源管理機構（IWMI ネパール中心） ・ コーディネートサポート機関：Gomal Damaan Area 水パートナーシップ（パキスタン） |
| オセアニア・ 太平洋 | リードコーディネーター：太平洋共同体事務局（SPC） サブコーディネーター：オーストラリア水パートナーシップ |

◆ アジア太平洋地域プロセス サブリージョナルプロセスセッション タイトル（11）

| | | |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 1 | River Basin Management under Changing Climate 気候変動下の河川流域管理 | 北東アジア |
| 2 | Incorporating Sociocultural Dimensions in Water Resources Management: Policies, Practices, and Challenges 水資源管理に社会文化的側面を取り入れる：政策、実践、課題 | 北東アジア |
| 3 | Smart Water Management: Opportunity and Challenges スマートな水管理 機会と課題 | 東南アジア |

| | | |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 4 | Mobilizing Water Finance for Climate Adaptation and Disaster Risk Management 気候適応と災害リスク管理に水ファイナンスを動員する | 東南アジア |
| 5 | Strengthening Resilience: Capacity Building for Gender-Inclusive Proactive Disaster Risk Reduction レジリエンスの強化 ジェンダーを含む積極的な災害リスク軽減のための能力開発 | 南アジア |
| 6 | Inclusive sanitation Management and service delivery with a particular focus on marginalized groups 特に社会から疎外されたグループに焦点を当てた包括的な衛生管理とサービス提供 | 南アジア |
| 7 | Mobilizing Water Finance for Climate Resilience in Central Asia and the Caucasus 中央アジア・コーカサスにおける気候変動レジリエンスに水ファイナンスを動員する | 中央アジア |
| 8 | Transboundary Water Cooperation in the Aral Sea basin for a better future より良い未来のためのアラル海流域における越境水協力 | 中央アジア |
| 9 | Water security and Pacific SIDS 水の安全保障と太平洋小島嶼国 | 太平洋島しょ国・オセアニア |
| 10 | Strengthening engagement in water security to support Pacific resilience 太平洋のレジリエンスを支える水の安全保障への取り組みの強化 | 太平洋島嶼国・オセアニア |
| 11 | Climate-resilient sanitation in Pacific Small Island Developing States 太平洋の小島嶼開発途上国における気候変動に対して強靱な衛生 | 太平洋島嶼国・オセアニア |

◆ アジア太平洋地域 サブリージョン統合セッション(5つ)

| | |
|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| Water security and the resilience of small island communities (タイトル TBD) | 太平洋島嶼国サブリージョナルコーディネーター (SPC/AWP) |
|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|

| | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| <p>Youth Session: Promoting intergenerational initiatives for achieving sound water cycle ユースセッション:健全な水循環に達するための世代間協力の促進</p> | <p>北東アジアサブリージョナルコーディネーター (JWF、UNESCO、北京 KWF)</p> |
| <p>Towards the International Year of Glaciers' Preservation 2025: Cooperation, Governance, and Priority-setting for Climate Action and Resilience-building to Glacial Melt in Asia 2025年国際氷河年に向けて: アジアにおける気候変動対策と氷河融解に対するレジリエンス構築のための協力、ガバナンス、優先順位設定</p> | <p>・ESCAP、南アジアサブリージョナルコーディネーター</p> |
| <p>Synthesis of Paths towards Water Security in Central Asia and Caucasus 中央アジアとコーカサスの水の安全保障に向けた道筋</p> | <p>中央アジア・コーカサスサブリージョナルコーディネーター (GWP CACENA, EC-IFAS)</p> |
| <p>Water Scarcity (タイトル TBD) 渇水</p> | <p>東南アジアサブリージョナルコーディネーター・GWPSEA (FAORAP サポート)</p> |

地域プロセス総括セッション

- 1 アジア太平洋地域総括セッション (APWF-AWC-ADB による総括)
- 2 世界の4地域間のインターリージョナルダイアログ (TBD)
3. 地域プロセス 総括

4つのハイレベルパネル

(テーマ別・アジア太平洋地域プロセスコーディネーターによる企画)